

2018年度(平成30年度)事業報告書（案）

2018年(平成30年)4月1日～2019年(平成31年)3月31日まで

認定NPO法人 富士山測候所を活用する会

1 事業の概況

本年の山頂での夏季観測に於いては、開所後（7/6）、閉所前(8/25)の悪天候にもめげず、7月1日より62日間に29プロジェクト、延べ人員415名の参加を得て無事終了できた。しかしながら、架空送電線下の土砂堆積により、その撤去費用がNPOの財政負担に重くのしかかって大幅な経常外損失を出すに至った。

事業運営を支える資金については、調査研究事業を受託したほか、2団体から助成金を獲得することができた。しかしながら、前述した経常外損失を埋めるには不足、急遽会員の方に寄附をお願いし、約1,360千円の浄財が集まった。これにより本年度は赤字決算を免れたが、次年度は厳しい状況である。

これら綱渡り状態から脱却すべく、本法人の定款変更を行い、現状の富士山測候所を活用した総合運用事業に、新たに富士山環境研究センター運用事業を加えた2大収益事業を柱とした体制を2019年1月5日に発足した。その主要な目的は自ら調査研究活動をおこない、文部科学省の科研費の獲得や、企業・団体からの調査研究の受託を積極的に行うことにある。文部科学省への科研費申請機関としての申請は、現在鋭意進めている。

また、本年より太郎坊を本会の観測基地の一つとして利用料金を設定し、自主事業収益の増加を図った。太郎坊はこれまで、特定の研究グループの観測点として利用されていたが、富士山中腹の、通年利用可能なサイトとして広く活用することが目的である。既に山梨大後藤聡准教授グループの大型プロジェクト（宇宙線ミュオンを用いた富士山山体透視技術の実証実験）を開始している。富士山の地下水の挙動を長期的に監視し水蒸気爆発に対する予兆を検出するなどの研究効果が期待できる他、利用料収入を得ることができた。

(1)総合的運用事業

1-1 インフラ関係

- 2018年9月11日から2023年9月10日までの第4期借受契約を東京管区気象台との間で締結した。
- ①前年6月の定期点検で発見された送電線埋設区間の馬の背ハット石積の一部崩落について、山頂班に修理を依頼した。②#70～#71号柱間架空送電線下の大量土砂堆積（2016年度に続き2度目）があり、関電工に撤去工事を依頼した。③台風25号による倒木のため停電が発生、関電工により応急復旧した。
- 御殿場基地事務所は東名御殿場インター付近に確保し、東名高速道路からのアクセス利便性が向上した。

1-2 学術的・科学的事業

- 2018年夏期観測は7/1-8/31まで過去最多の29事業に延べ415名（対前年比10%増）が参加して実施された。
- 研究内容からみると、従来の継続研究に加えて、新たな研究として、①太郎坊にて新たに宇宙線ミュオンを用いた富士山山体透視実証実験（山梨大）、②ドローンにセンサー・測定装置を搭載して鉛直大気観測（早稲田大・大河内G/東京理科大・三浦G/㈱グリーンブルー）、③風力主体ハイブリッド発電機の実証実験（産業技術大学院大・桐原G）、④高所脳浮腫の解明につなげるべく登山中の血圧測定（自治医科大・金沢G）、⑤高感度で遠距離でも通信可能な広域ネットワーク技術の実証実験（ソニー荒島G）、⑥高山病を集中治療の観点から酸素需要と供給の関係とらえ各種データを測定（大阪大付属病院・清水G）、などを実施した。
- 従来借用して設置していた複合気象測器をNPOとして新規購入し、使用を開始した。併せて、庁舎内でリアルタイムで気象データを把握できるように改善した。
- 従来東西2方向を撮影していた2台のライブカメラを3台に増やし、東、南、西3方向の画像配信を可能とし

た。

1-3 環境教育事業

- 教育的観点から学生の自主的プロジェクトを対象に公募している。2018年度学生公募で①遠藤周・東京大学院生が、通信機能付き簡易モニタリング機器の実証実験の後、引き続き越冬での試験を実施。②三木健司・京都大学院生が富士山頂における花粉観測による生物粒子の成層圏への輸送の研究を行ない、広く注目を浴びた。③伊藤有羽・ブリティッシュコロンビア大生が高高度発光現象の多点観測及び大気光変動との関係の研究を行なった。
- 「富士山から地球環境問題の最先端を発信する」((一財) WNI 気象文化創造センターより「気象文化大賞」を受賞)。2本の山頂からのレクチャー動画を作成・配信した。

(2)富士山環境研究センター事業

- 富士山噴火予知のためのSO₂通年観測システム構築に関する研究((一財) 新技術振興渡辺記念会よりの受託調査研究)。

(3)国際及び国内シンポジウム等開催事業

- 2007年アル・ゴア氏と共にノーベル平和賞を授与されたIPCCメンバーの1人でもあるラス・シュネル博士(NOAA 全球大気モニタリング部 副部長)の講演会(2018/10/26)を東京理科大学大気科学研究部門主催・NPO共催にて実施。学生を含む60数名が聴講した。
- 第12回成果報告会(2019/3/17)を主催(東京理科大学大気科学研究部門共催)した。
- 第3回成果報告会(2019/3/29、東京理科大学大気科学研究部門主催)を後援した。

(4)情報発信等広報事業

- 富士山測候所の歴史を調べる会(仮称)について、佐藤監事と土器屋理事を窓口として調査グループを立上げ、随時会合等行うとともに、資料の整理・HP上での公開を進めている。
- 自然災害や雷と富士山測候所との関わりを中心に、鴨川理事による5回の講演を実施した。(大阪市、横浜市、裾野市など)
- (公財)中部科学技術センター主催第2回キャタリストフォーラムにおいて、古田理事が講演「富士山頂の自然に学ぶ理科実験の工夫」を実施。(12/22、津市)
- NHK ラジオの全国放送番組「旅ラジ」に土器屋理事が出演し、富士山測候所の紹介を行った。(9/11、富士宮市)
- 大規模環境イベント「エコプロ 2018」において、日本郵便株式会社「年賀寄附金配分事業」の事例を代表して、本会の活動を紹介した。(兼保理事、12/6-8、東京ビッグサイト)

(5)その他の事業

- 書籍販売
- NPO等活動支援プラットフォーム gooddo による広告協賛収入

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
(1)総合的運用事業	A.インフラの構築と整備			10,465
	ア. 開所に向けた設営事前準備と事前ミーティングの実施 (1)「現状変更申請」、「自衛隊立入許可証」、「マイカー規制確認証」などにつき関係諸官庁への必要な許可申請手続きを行った。 (2)夏期観測関係者による事前ミーティングを開催し、安全ルール等について徹底をはかった。	(A)4/1～6/30 (B)事務局/研究者 (C)20名	(D)研究者等 (E)延415名	
		(A)6/3 (B)東京理科大学 (C)5名	(D)一般研究者・学生等 (E)30名	
	イ. 開所期間中の利用者の安全・円滑なロジスティックス、登山/下山の支援 (1)「登山計画書」をもとに①登下山の個人別日程管理表②ブル日程表の管理資料作成システムを運用し、62日間・延べ415人の登下山のオペレーションを円滑に実施した。 (2)御殿場基地事務所として二の岡地区に民間アパートを短期借上げし、研究者/山頂班に供し有効活用した。	(A)7/1～8/31 (B)富士山頂(富士山測候所)、御殿場基地(御殿場市)、事務局(東京都) (C)50名	(D)一般研究者・学生及び会員等 (E)延415名	
	ウ. 夏期観測終了後の報告と反省会の実施 (1)「現状変更終了報告」を関係諸官庁(気象庁、静岡県教育委)へ行った。 (2)夏期観測参加関係者による反省会を実施し、次年度の観測研究に備えた。	(A)9/1-10/31 (B)事務局/研究者 (C)20名	(D)研究者等 (E)約20名	
		(A)11/17 (B)東京理科大学 (C)5名	(D)一般研究者・学生等 (E)20名	
	エ. インフラ(ブル道・建屋・電源等)の整備 (1)ブル道 馬の背ブル道の損傷状況を勘案し、砂入れ補修を1回実施した。 (2)建物 山頂庁舎の老朽化対策として庁舎外壁継目のシーリングを行ったほか、台風により傷んだ板囲いの補修をおこなった(2018年度年賀寄付金配分事業による)。 (3)電源 送電線定期点検により発見された70号柱-71号柱間の土砂堆積(2016年に続き2度目)について、関電工による除去工事を実施した。 馬の背ハット石積崩れについて、山頂班により積直し等補修を行った。 10/1 倒木停電が発生し、関電工による緊急復旧処理を行った。	(A)7/1～8/31 (B)富士山頂(富士山測候所) (C)50名 (A)7/1～8/31 (B)富士山頂(富士山測候所) (C)20名 (A)5/7～5/12 (B)架空送電線 (C)60名 (A)8/9～8/12 (B)馬の背ハット (C)15名	(D)一般研究者・学生及び会員等 (E)延415名	
	B.科学的・学術的事業			8,932
	ア. 観測研究の実施支援 (1)過去最多となる29事業(継続21、新規8)に延415名が参加して実施された。 (2)①通年観測が定着、②火山噴火に関わる研究の定着、③高所医学では複数プロジェクトで参加人数も大幅に増加、④外国人や学生の新規参加、などが本年度の特徴。	(A)7/1～8/31 (一部通年観測) (B)富士山測候所 (C)延415名	(D)研究者・学生等(公募により選抜) (E)延415名	

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
	(3)助成事業では「地球環境観測拠点としての富士山測候所の自立電源による越冬稼働のための事業」(年賀寄附金配分事業)、「富士山から地球環境問題の最先端を発信する」(WNI 希少文化創造センター「希少文化大賞」助成)を実施した。			
	イ. 研究速報の発表 夏期観測終了後には参加者に速報の提出をいただき、HP 上に公開した。	(A) 9/1～ (B) 大学等 (C) 延 20 名	(D) 会員・一般 (E) 不特定多数	
	ウ. 共用データ取得の充実 (1) 複合気象測器を NPO として新規購入し、使用を開始した。併せて、庁舎内でリアルタイムで気象データを把握できるように改善した。 (2) 従来東西 2 方向を撮影していた 2 台のライブカメラを 3 台に増やし、東、南、西 3 方向の画像配信を可能とした。またより高画質のカメラのテストを開始した。	(A) 7/1～8/31 (B) 富士山測候所 (C) 5 名	(D) 会員・一般 (E) 不特定多数	
	エ. 大気科学専門家によるレクチャー動画の作成 環境科学レクチャー動画のコンテンツとして従来の 01-05 に加え 06「エアロゾル粒子を連続採取。化学組成、粒径、形状を知る」(東理大・森会員)、07「富士山頂における窒素酸化物の計測」(帝京化学大・和田理事) の 2 講座を制作し、公開した。(2018WNI 気象文化創造センター「気象文化大賞」助成事業)	(A) 8/5～8/20 (B) 富士山測候所 (C) 延 6 名	(D) 学生・一般 (E) 不特定多数	
	カ. 環境教育事業 ア. 学生公募の実施 教育的観点から NPO 財源により学生による自主的事業を対象とした公募で選ばれた 3 名(京大・三木健司、東大・遠藤周、プリティッシュコロンビア大・伊藤有羽) が夏期観測に参加した。	(A) 7/1～8/31 (B) 富士山測候所 (C) 5 名	(D) 学生 (E) 3 名	195
(2) 富士山環境研究センター事業	ア. 調査研究受託事業 昨年度に引き続き、「富士山噴火予知のための SO ₂ 通年観測システム構築に関する研究」(新技術振興渡辺記念会受託事業) を実施した。			811

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の 事業費の金額 (単位:千円)
(3)国際・国内シンポジウム等開催事業	ア. ラス・シュネル博士講演会の実施 東京理科大学総合研究院大気科学研究部門主催、本会共催で実施。60 数名が参加した。	(A)3/29 (B)東京理科大学 (C)15 名	(D)会員・一般 (E)60 数名	78
	イ. 第 12 回成果報告会の実施 第 12 回成果報告会を森戸記念館で開催した。76 名が参加し、38 件の発表(口頭発表 15 件、ポスター発表 23 件)。	(A)3/17 (B)東京理科大学 (C)45 名	(D)会員・一般 (E)76 名	
	ウ. 東京理科大学総合研究院大気科学研究部門主催第 3 回成果報告の後援 東京理科大学同部門主催第 3 回成果報告会を後援した。	(A)3/29 (B)東京理科大学 (C) 10 名	(D)会員・一般 (E)50 名	
(4) 出版・情報発信等広報事業	ア. HP による情報発信 (1)データのリアルタイム公開を大幅に充実させ、これまでの二酸化硫黄(SO ₂)に加えて、一酸化炭素(CO)やオゾン(O ₃)や、雷の指標となる大気電場などのリアルタイム公開を新たに開始した。また、従来東西 2 方向の画像を提供していたライブカメラも東南西 3 方向に拡大した。	(A)7/1~8/31 (B)富士山測候所 (C)延 50 名	(D)会員・一般 (E)不特定多数	47
	(2)インスタグラムでの写真投稿を継続し夏期観測期間中、HP から連日、山頂班が早朝に撮影した山頂の貴重な画像を継続発信した。 (3)ブログを継続し、情報の補完を行った。	(A)7/1~ (B)事務局/ 山頂班 (C)延 10 名	(D)会員・一般 (E)不特定多数	
	(4)野中勝氏(野中到の孫)の協力を得て、野中到・千代子に関する歴史的にも貴重な資料を整備する事業を継続中。HP の『野中到・千代子資料館』の充実を引続き行った。	(A)11/1~3/31 (B)事務局ほか (C)延 10 名	(D)不特定多数/会員 (E)不特定多数	
	イ. 書籍、新聞、放送等による情報発信 NHK ラジオの全国放送番組「旅ラジ」に土器屋理事が出演し、富士山測候所の紹介を行った。	(A)9/11 (B)富士宮市 (C)1 名	(D)会員・一般 (E)不特定多数	
	ウ. 会報誌、パンフレット等出版物 (1)会報「芙蓉の新風」Vol. 13 を発行した。 (2)パンフレット改訂版を発行した。また、要覧を数回にわたって改訂した。	(A)1/1 (B)事務局 (C)5 名	(D)会員・一般 (E)不特定多数	
	エ. 講演・プレゼン等 講演(鴨川理事; 雷、防災; 5 回) 講演(古田理事; 教材開発) プレゼン(兼保理事; 環境イベント「エコプロ 2018」)	(A)4/1~3/31 (B)各地 (C)延 8 名	(D)一般 (E)不特定多数	

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の 数	(D)受益対象 者の範囲 (E)人数	収支計算書の事 業費の金額 (単位:千円)
(1) 書籍販売	よみがえる富士山測候所		1	0.5
(2) 関連グッズの 販売	無し			
(3) その他	広告協賛収入(gooddo)			3.9

決 算 報 告 書

第 14 期

自 平成30年 4月 1日

至 平成31年 3月31日

(特非) 富士山測候所を活用する会

東京都千代田区麹町一丁目6番9号
D I K 麹町ビル901

書式第15号(法第28条関係)

平成 30: 年度 貸借対照表

平成 31 年 3 月 31 日現在

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	2,254,480		
未収金	2,867,193		
その他流動資産	0		
流動資産合計		5,121,673	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
構築物	4,200,000		
機械及び装置	1,895,000		
什器備品	3,807,944		
減価償却累計額	△ 4,163,737		
有形固定資産計		5,739,207	
(2)無形固定資産			
-	0		
無形固定資産計		0	
(3)投資その他の資産			
保証金	150,333		
敷金	230,000		
投資その他の資産計		380,333	
固定資産合計		6,119,540	
資産合計			11,241,213
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,848,000		
前受金	1,400,000		
預り金	64,040		
未払い消費税	0		
納税充当金	120,000		
流動負債合計		3,432,040	
2 固定負債			
修繕積立金	1,200,000		
固定負債合計		1,200,000	
負債合計			4,632,040
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		6,532,795	
当期正味財産増減額		76,378	
正味財産合計			6,609,173
負債及び正味財産合計			11,241,213

書式第14号 (法第28条関係)

平成 30年度 活動計算書			
平成 30年 4月 1日から 平成 31年 3月31日まで			
特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会			
(単位：円)			
科 目	特定非営利活動に 係る事業	その他の事業	合計
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	1,275,000	0	
賛助会員受取会費	602,000	0	
学生会員受取会費	60,000	0	1,937,000
2 受取寄附金			
受取寄附金	1,478,359	0	
使途特定寄附金	360,000	0	1,838,359
3 受取助成金等			
受取補助金	0	0	
助成金	4,339,000	0	4,339,000
4 事業収益			
総合事業収益			
自主事業収益	22,838,054		
科学学的収益	8,638,506	0	
環境教育事業収益	0	0	31,476,560
5 富士山環境研究センター事業収益			
受託事業収益	2,000,000	0	
調査研究助成金	0	0	
補助金(科研費)	0	0	2,000,000
6 国内・国際シンポジウム収益	0	0	0
7 その他収益			
受取利息	4,509	0	
その他	0	4,457	8,966
経常収益計	41,595,428	4,457	41,599,885
II 経常費用			
1 事業費			
(1)総合運用事業			
(1-1)自主事業	16,655,845		
(1-2)科学的・学術的事業	8,931,696		
(1-3)環境教育事業	195,374		25,782,915
(2)富士山環境研究センター事業			
(2-1)受託事業原価	1,950,394		
(2-2)研究費	304,458		2,254,852
(4)人的ネットワーク事業	0		0
(5)シンポジウム等開催事業	78,088		78,088
(6)出版・情報発信等広報事業	46,590		46,590
(7)その他の事業原価	0		0
事業費計	28,162,445	0	28,162,445
2 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
給料手当	2,481,000		
通勤費	960,112		
法定福利費	505,480		
雑給与	3,161,900		
人件費計	7,108,492	0	7,108,492
(2)その他経費			
謝金	22,222		
通信費	333,194		
運搬費	0		
水道光熱費	106,062		
旅費交通費	359,550		
会議費	20,446		
地代家賃	1,661,125		
事務用消耗品費	247,411		
備品消耗品	10,796		
印刷費	15,151		
租税公課	59,350		
保険料	25,000		
支払手数料	21,600		
諸会費	5,000		
雑費	110,403		
配分管理費	0		
その他経費計	2,997,310	0	2,997,310
管理費計	10,105,802	0	10,105,802
経常費用計	38,268,247	0	38,268,247
当期経常増減額	3,327,181	4,457	3,331,638
III 経常外収益			
修繕積立金取崩益	2,000,000		2,000,000
経常外収益計	2,000,000		2,000,000
IV 経常外費用			
災害対策費	3,935,260		
修繕積立引当額	1,200,000		
経常外費用計	5,135,260	0	5,135,260
税引前当期正味財産増減額	191,921	4,457	196,378
法人税、住民税及び事業税	120,000	0	120,000
その他の事業益金繰り入れ	4,457	-4,457	
当期正味財産増減額	76,378	0	76,378
前期繰越正味財産額			6,532,795
次期繰越正味財産額			6,609,173

書式第17号(法第28条関係)

平成 30年度 財産目録			
平成 31年 3月 31日現在			
特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会			
(単位:円)			
科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
小口現金	192,899		
普通預金			
みずほ銀行 麹町支店	1,836,156		
郵貯銀行	11,943		
三菱UFJ 銀行 麹町支店	83,694		
郵貯銀行/受払口座	129,788		
定期預金	0	2,254,480	
未収金			
事業未収金	2,867,193		
会費未収金	0	2,867,193	
その他流動資産			
前払金	0		
立替金	0	0	
流動資産合計		5,121,673	
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
構築物	4,200,000		
機械及び装置	1,895,000		
什器備品	3,807,944		
減価償却累計額	△ 4,163,737		
有形固定資産計		5,739,207	
(2)無形固定資産			
-	0		
無形固定資産計		0	
(3)投資その他の資産計			
保証金	150,333		
敷金	230,000		
投資その他の資産計		380,333	
固定資産合計		6,119,540	
資産合計			11,241,213
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,848,000		
前受金	1,400,000		
預り金	64,040		
未払消費税	0		
納税充当金	120,000		
流動負債合計		3,432,040	
2 固定負債			
修繕積立金	1,200,000		
固定負債合計		1,200,000	
負債合計			4,632,040
正味財産			6,609,173

書式第16号（法第28条関係）

平成30年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、一般会計基準 によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法 無し
- (2) 固定資産の減価償却の方法 定額法によっています。
- (3) 引当金の計上基準
 - ・退職給付引当金
 - ・修繕積立金は収支状況に基づき、任意に引き当てをする。
- (4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理 無し
- (5) 消費税等の会計処理は、内税方式によっています。

2. 事業別損益の状況

科目	総合運用 事業	富士山環境 研究センター	国際及び国内フ ォジウム等開催事 業	出版、情報発 信等の広報事	その他の事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益								
1. 受取会費						0	1,937,000	1,937,000
2. 受取寄附金	1,478,359	360,000				1,838,359		1,838,359
3. 受取助成金等	4,339,000					4,339,000		4,339,000
4. 賛助金						0		0
5. 事業収益	31,476,560	2,000,000				33,476,560		33,476,560
6. その他収益					4,457	4,457	4,509	8,966
経常収益計	37,293,919	2,360,000	0	0	4,457	39,658,376	1,941,509	41,599,885
II 経常費用								
(1) 人件費								
労務委託費	5,496,000	1,443,500				6,939,500		6,939,500
御殿場基地人件費	482,000					482,000		482,000
傷害保険料	212,474					212,474		212,474
事務局人件費						0	7,108,492	7,108,492
人件費計	6,190,474	1,443,500	0	0	0	7,633,974	7,108,492	14,742,466
(2) 事業費								
総合運用事業費								
受託事業原価		506,894				506,894		506,894
研究費						0		0
運搬費	2,159,181					2,159,181		2,159,181
通信費	86,225	12,896				99,121		99,121
外注委託費						0		0
印刷製本費		171,396		46,590		217,986		217,986
修繕費	976,957					976,957		976,957
し尿処理費	578,880					578,880		578,880
送電線等保全費	1,512,000					1,512,000		1,512,000
水道光熱費	2,858,143	113,597				2,971,740		2,971,740
賃借料	647,827					647,827		647,827
旅費交通費	647,457					647,457		647,457
減価償却費	476,453	6,569				483,022		483,022
その他諸事業費	522,248		78,088			600,336		600,336
科学的・学術的事業費	8,931,696					8,931,696		8,931,696
環境教育事業費	195,374					195,374		195,374
事業費計	19,592,441	811,352	78,088	46,590	0	20,528,471	0	20,528,471
(3) 管理費								
謝金						0	22,222	22,222
通信費						0	333,194	333,194
旅費交通費						0	359,550	359,550
荷造り運賃						0	0	0
水道光熱費						0	106,062	106,062
事務所家賃						0	1,661,125	1,661,125
会議費						0	20,446	20,446
事務用消耗品費						0	247,411	247,411
備品消耗品費						0	10,796	10,796
印刷費						0	15,151	15,151
損害保険料						0	25,000	25,000
租税公課						0	59,350	59,350
諸会費						0	5,000	5,000
支払手数料						0	21,600	21,600
減価償却費						0	0	0
雑費						0	110,403	110,403
配分管理費		707,406				707,406	-707,406	0
管理費計	0	707,406	0	0	0	707,406	2,289,904	2,997,310
経常費用計	25,782,915	2,962,258	78,088	46,590	0	28,869,851	9,398,396	38,268,247
当期経常増減額	11,511,004	-602,258	-78,088	-46,590	4,457	10,788,525	-7,456,887	3,331,638

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

(単位：円)

内容	金額	算定方法
無し		

4. 用途等が制約された寄附金等の内訳

用途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。
 当法人の、下記のように用途が特定された助成金は前受金1,400,000円として負債額計上処理しており、
 よって負債合計額は4,632,040円となります。
 したがって用途が制約されていない正味財産は6,609,173円です。

(単位：円)

内容	期首残高	当期減少額	期末残高	備考
渡辺記念会	0		400,000	
大成建設助成金	0	0	1,000,000	
合計	0	0	1,400,000	

5. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産					
構築物	4,200,000	0	4,200,000	1,285,200	2,914,800
機械装置	1,895,000	0	1,895,000	726,973	1,168,027
総合運用事業用什器備品	2,861,445	433,859	3,295,304	2,046,175	1,249,129
研究センター用什器備品	0	402,840	402,840	6,569	396,271
管理用什器備品	109,800	0	109,800	98,820	10,980
計	9,066,245	836,699	9,902,944	4,163,737	5,739,207
無形固定資産					
.....			0	0	0
投資その他の資産					
保証金	160,000	-9,667	150,333		160,000
敷金	230,000		230,000		230,000
計	390,000	-9,667	380,333	0	390,000
合計	9,456,245	827,032	380,333	4,163,737	6,129,207

6. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	期末残高
無し	0	0	0
合計	0	0	0

7. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位：円)

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書) 受取寄附金	1,838,359	625,900
活動計算書計	1,838,359	625,900
(貸借対照表) 前受金	1,400,000	0
貸借対照表計	1,400,000	0

8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

- ・ 事業費と管理費の按分方法
無し
- ・ その他の事業に係る資産の状況
無し

固定資産台帳(2019/03/31現在)

資産区分	名称	取得日	取得価格	耐用年数	償却率	償却基礎額	年間償却費	18年度償却額	18年度償却残高	累計償却引当額	
総合運用 事業用	建築物	2008/7/31	4,200,000	30	0.034	3,780,000	128,520	128,520	2,914,800	1,285,200	
	小計										
	機械装置	2010/7/28	1,895,000	18	0.055	1,705,500	93,803	93,803	1,168,027	726,973	
	小計										
	器具備品	2007/3/31	547,365	5	0.200	492,629	0	0	54,735	492,630	
	インレット	2012/2/23	856,800	5	0.200	771,120	154,224	154,224	85,680	771,120	
	太陽光ロガー	2012/7/31	357,000	5	0.200	321,300	64,260	64,260	35,700	321,300	
	ロゴスキークォイル	2016/7/4	250,560	5	0.200	225,504	45,101	45,101	137,808	112,752	
	HARUKA	2016/7/19	151,200	5	0.200	136,080	27,216	27,216	83,160	68,040	
	制御部HV-RW用 HV-RW-K1型	2018/3/30	398,520	5	0.200	358,668	71,734	71,734	228,266	170,254	
	ノースワンタイム回路	2018/6/27	129,600	5	0.200	116,640	23,328	19,440	110,160	19,440	
	気象測器&計測システム	2018/8/3	604,259	5	0.200	543,833	108,767	90,639	513,620	90,639	
	小計										
	器具備品	デジタルオシロスコープ	2019/3/11	262,440	5	0.200	236,196	47,239	3,937	258,503	3,937
		デルノートパソコン	2019/3/25	140,400	4	0.250	126,360	31,590	2,633	137,768	2,633
小計											
事業用合計			9,793,144				795,781	483,022	5,728,227	4,064,917	
管理用	什器備品	2008/2/1	109,800	4	0.250	98,820	0	0	10,980	98,820	
	デジタル一眼レフカメラ										
	小計										
総合計			9,902,944				795,781.12	483,022	5,739,207	4,163,737	

減価償却費 減価償却引当金

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

理事長 畠山 史郎 殿

定款第15条第5項の規定に基づき、第14期事業年度の計算書類とその付属明細書の監査、並びに理事の業務執行状況について監査した結果、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

理事会及び各種委員会に出席し、会計帳簿その他会計に関する重要な文書を読覧すると共に、理事等から職務の業務執行状況等の報告を受け、また、随時説明を求めてきました。

2. 監査の結果

- (1) 財産目録、貸借対照表、活動計算書は、法人の財産及び収支の状況の全ての重要な点において適正に表示している。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく表示している。

平成31年4月18日

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

監 事 佐藤 政博 印